

# 漁場改良造成事業効果調査

三木 文興 ・ 植木 竜夫

## は し が き

大間地先における調査経過から、雑藻礁爆破→コンブ礁（約4年間）→雑藻礁の傾向がみられること、辨天島の西側海区と東側海区とでは海藻分布に差があること、および1年コンブがホンダワラ類に多数着生する現象について報告した。本年度はこれらの問題について調査すると共に易国間地先におけるコンブ漁場（昭和31、32、34、36、38年度調査）について実測調査を行なった。

## 1 有効年限に関する調査

### 調査場所

下北郡大間町大間地先

### 調査方法

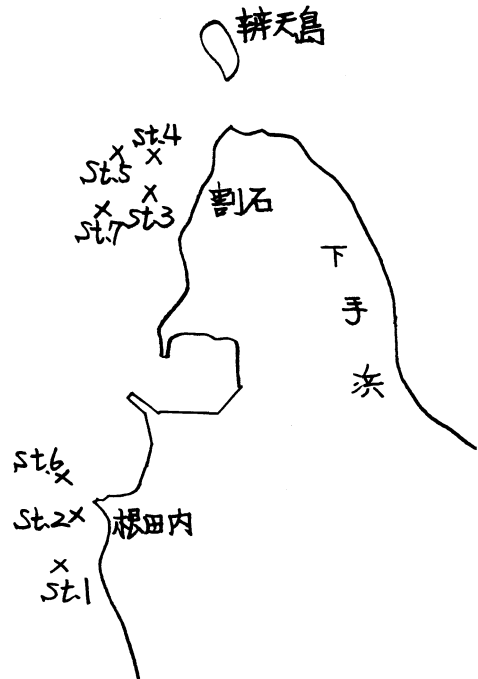
1m×1m枠取り潜水調査により採集海藻の個体数、湿重量などを測定した。調査地点は、昭和36年度～昭和43年度事業区内の7地点である。

### 調査結果

調査地点は第1図に、採集海藻類の測定結果は第1表に示した。調査地点については20点を計画したが、急潮、波浪のため東側海区は調査出来なかった。

採集海藻類は第1表のとおりであるが、昭和36年度事業区ではホンダワラ類の繁茂と、ホンダワラへの1年コンブの着生、昭和38年度事業区ではホンダワラへの1年コンブの着生と他の海藻類が混生する傾向がみられる。昭和40、43年度事業区ではコンブがやや多く、雑藻類は少なかった。

前年度ホンダワラ類に着生していた1年コンブについては、2年コンブとして採集されなかったが、ホンダワラ類の未枯れと共に流失したものと思われる。



第1図 大間地先調査地点図

第1表 大間地先枠刈り調査表(44.6.2:7.13調査)

St	事業年度	水深	1年目 コンブ	2年目 コンブ	ワカメ	ムチモ	スガモ	ホンダ ワラ	スジメ	計
1	43	m 7	1) 92 <sup>g</sup> 6.8		3 0.4	15 0.4				9 7.6
2	38	6		10 3.6				22 3.4		10.4
3	36	4	(228)56 0.8				0.1	※16.7		17.6
4	38	4	(177)13 0.3	35 12.2	7 0.3			※0.9	10 0.17	13.9
5	38	5	(321)135 4.8	6 1.8	22 2.8			※2.5	3 0.13	12.0
6	38	4	4 -	15 1.8						1.8
7	40	7	9 2.8	18 9.9						12.7

1) 個体数 2) 湿重量

※: ホンダワラ+コンブ+エゴノリ湿重量

( ) の数字は、ホンダワラに着生したコンブ個体数

(枠の大きさ 1m×1m)

## 2 コンブ漁場実測調査

### 調査方法

下北郡風間浦村易国間地先

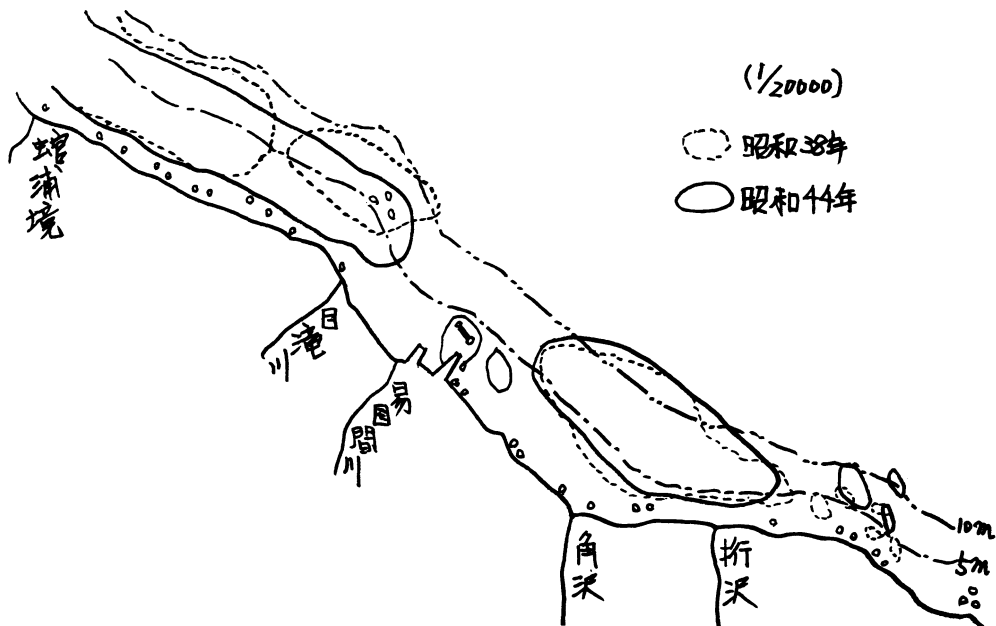
### 調査方法

沖出し18線について間縄、コンパスなどを使用して水深、底質、海藻分布を観察し漁場図を作成した。又陸上の基点は、過去の調査基点と同地点とした。

### 調査結果

易国間地先におけるコンブ岩礁爆破事業の効果を把握する一方法として昭和31年～38年の間に5回、地先の水深、底質、海藻分布を実測調査し、一部の地区における海藻の遷移現象と昭和31、32、34、36、38年におけるコンブ漁場面積がそれぞれ約1.5万、3万、8万、12万、30万<sup>m</sup>と拡大したことを報告し、拡大した漁場の或る面積は爆破事業の進行と共に形成されたことを報告した。

本年度の実測結果の概要は第2図のとおりであるが、過去の調査結果と比較するため、一部の地区(桑畑地区沖出し9線)を図から除いた。



第2図 易国間地先実測図

昭和38年と本年の実測結果を比較すると、漁場位置、漁場面積共大きな変化はみられず、又目立った海藻の遷移現象もみられず、コンブ漁場は安定した状態にあると云えよう。

桑畑地先の海藻分布の概要は次のとおり。

潮間帯にはフクロフノリ、チガイソ、ワカメが多く、低潮線から水深約10mには、スガモ、ワカメ小群落、1年コンブ小群落が点在する程度で、特に水深5~10mでは海藻類は少ない。

水深15~20mの砂地に点在する礫には2年コンブの着生がみられたが、急潮のため十分な潜水調査が出来なかった。